

胃の前癌病変について

スウェーデン Karolinska Institutet の Ye らは、胃内視鏡生検で前癌病変を有していた患者での胃癌発生率を、正常粘膜の患者と比較する観察研究を行い、「British Medical Journal」誌に報告しました (n=405,211)。



最初の2年以降、1,599件の胃癌が同定されました。

スウェーデン一般集団を基準とした標準化罹患比 (SIR) は、正常粘膜で 1.0、軽微な変化で 1.5、胃炎で 1.8、萎縮性胃炎で 2.8、腸上皮化生で 3.4、異形成で 6.5 でありました。

